

## 学生と図書館職員の協働による学習支援の実績と将来展望 ～学びサポート企画部のこれまでとこれから～

下村宗央<sup>1)</sup>、畑中唯菜<sup>1)</sup>、片山裕之<sup>2)</sup>、枝川恵理<sup>1)</sup>  
 亀岡由佳<sup>3)</sup>、近藤 薫<sup>3)</sup>、佐々木奈三江<sup>3)</sup>、吉田 博<sup>4)</sup>

1) 徳島大学総合科学部 2) 徳島大学工学部  
 3) 徳島大学附属図書館 4) 徳島大学総合教育センター

### 1. はじめに

近年の大学教育においては、学生の能動的学習の促進が強く求められており、大学図書館にその役割の一端を担う可能性があるとして期待されている<sup>1,2)</sup>。このような背景の中、徳島大学附属図書館ではラーニング・コモンズを整備し、学生と教員、図書館職員が協働して、学生の能動的学習を促進するための実践を行ってきた<sup>3,4)</sup>。本発表は、これらの取り組みを行う「学びサポート企画部」の活動を紹介するとともに、これまでの課題に対する将来の展望を考察し、明らかにする。

### 2. 学びサポート企画部の活動と実績

学びサポート企画部（以下、学びサポ）は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という理念のもと、活動している徳島大学のサポート系サークルである。大学生を対象に、学習相談や大学での学習や研究に対する動機づけを目的としたイベントを企画・実施している。

#### (1) Study Support Space (SSS)

SSSは学生の学習に関する相談に対してアドバイザーが対応する取り組みで、2013年4月より実施している。アドバイザーは教員、大学院生、学部学生が務め、SSS時間割（図1）に合わせて附属図書館本館1階のピア・サポートルーム（以下、PSR）にて待機し、訪れた学生の相談に対応する。SSSを開設して以降、授業期間中の平日は毎日実施し、2015年9月末時点までの累計相談者数は896名であった。相談内容は、①学習相談

が575件（64%）、②進路や課外活動等の学習内容以外の相談が217件（24%）、③その他の内容が104件（12%）であった。年度ごとの相談内容の推移は図2の通りである。

#### (2) 学習関連のイベント

学びサポでは、これまでに「レポートの書き方講座」、「先生のコバナシ」、「全力卒論発表会」を企画・実施した。イベント内容の詳細は、（片山ほか2014、亀岡ほか2015）を参照されたい。

### 3. 学びサポート企画部の課題と将来展望

学びサポはSSSや学習関連イベントを通して、学習に関する不明点・疑問点の解消や学習・研究に対する動機づけを行うことにおいて貢献してきた<sup>3,4)</sup>。しかし、検討すべき課題は多く残されている。本節では4つの視点から現状の課題と将来展望を考察する。

#### (1) 学生のニーズ把握

SSSでは2014年度後期より、学生がより身近に感じることができる、大学院生、学部学生のアドバイザーを増加させてきた。図2より、2015年度は学習相談の割合が増加している傾向が見られるが、前期の相談者数が過去2年間に比べて少ない。このことから、学生の学習相談に関するニーズに合わせられていない可能性が伺える。また、学習関連のイベントについても、参加者数は年々増えており、内容も好評であるが、リピーターが多く、参加する学生の絶対数は少ないのが現状である。今後は、アンケート調査やヒアリング調査等を行うことで、学生のニーズを把握し、ニーズに対応した企画・運営を行っていくことが求められる。

(2) 相談者に配慮した環境・雰囲気作り

徳島大学では、図書館のラーニング・コモンズを利用する学生が近年増加している。SSS を実施している PSR の入り口付近も書架を移動させ、グループ学習に利用できるスペースを拡張した。それに伴い、PSR は人の視線が集まる開かれた空間となり、相談者にとって入りにくい環境になったと考えられる。また、PSR 内も事務室の面影が残っており、整理ができていないと言いき難い状況である。アドバイザーと協力して、相談者に親しみやすい雰囲気作りや相談者に配慮した環境作りが求められる。

(3) 他のサークル・教員との連携

サポート系サークルには、ピア・サポート活動を目的としたサークルがいくつかあり、附属図書館を拠点に活動するサークルも存在している。学びサポでは、これまでに他のサークルと協働した企画を実施したことがない。他のサークルと連携することで、新しい視点での意義を見出すことや、広報、ニーズの把握にも繋がるのが期待できる。また、教員アドバイザーがオフィスアワーや担当している授業における課題の対応場所として位置づけたことで、特定の相談が増加したことがある。当然、単なる課題相談の窓口には留まらないように注意する必要があるが、アドバイザーとのやり取りが、学問への動機づけに繋がることも期待できる。他との連携による相乗効果を検討し、積極的に連携を提案していくことも重要である。

(4) 初年次教育支援としての位置づけ

徳島大学では、2015 年度より 1 年次全員が受講する初年次教育プログラム「SIH 道場」が実施されるようになり、学生の能動的学習（アクティブ・ラーニング）の促進が進められている。SIH 道場では、学士課程全般にわたりアクティブ・ラーニングを実践していくことができるラーニングスキルの修得が謳われている。学びサポでは、「レポートの書き方講座」を開催し、ある一定の効果を挙げている。そこで、SIH 道場と連携した企画を打ち出すことで、特に、文章力やプレゼンテーション力の修得に関する場面において、学びサポのリソースを活かせるのではないだろうか。

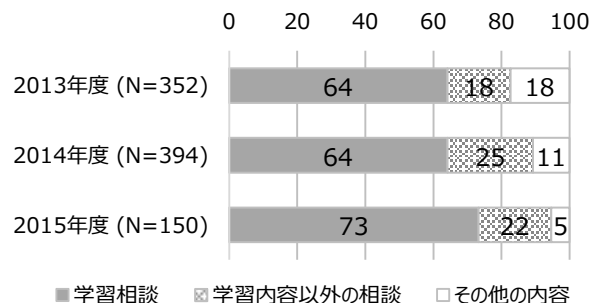
4. まとめ

学びサポは、徳島大学における学習支援、さらに学生のアクティブ・ラーニングの促進に貢献できるサークルに発展することを目指している。そのためには、独自の企画・立案を進めていくことに加え、他との連携、実態の把握、大学改革の動向を知ることが求められる。今後は企画の質向上に加え、例えば、正課外における学習支援の意義や SSS のアドバイザーにとっての意義などを明らかにすることも将来の課題としたい。

SSS 学習支援内容・アドバイザー（10・11月）

曜日	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
14:00-15:00	留学相談 吉川 結乃 氏	心理学・統計学 永瀬 賢 氏			個別相談・教壇の仕方 吉田 博 氏
15:00-16:00	数分単位・物理学 宮岡 憲 氏	生物学・地域活動 原 朝希 氏	生物学・地域活動 原 朝希 氏	数分単位・物理学 宮岡 憲 氏	心理学・統計学 永瀬 賢 氏
16:00-17:00	数学 大沼 正樹 氏	24時-14時個別 三橋 友子 氏	心理学・統計学 永瀬 賢 氏	個別相談・教壇の仕方 吉田 博 氏	生物学・英語 高永 洋子 氏
17:00-18:00	物理学 青藤 裕仁 氏	物理学・その他 小山 啓之 氏	個別相談・14-18時 久保江武彦 氏	卒業向け読み相談 川野 和也 氏	化学 森田 信広 氏
18:00-19:00	数学 大沼 正樹 氏	生物学・英語 高永 洋子 氏	物理学 白鳥 真郎 氏	14時-18時野研修 松野 高樹 氏	留学相談 吉川 結乃 氏

図 1 SSS 時間割（2015 年 11 月現在）



注)2015 年度は前期のみのデータである。

図 2 年度ごとの相談内容の推移 (%)

参考文献

- 1) 長澤多代; 主体的な学びを支える大学図書館の学修・教育支援機能, 京都大学高等教育研究, 19, 99-110, 2013.
- 2) 井下理; 学習環境としてのラーニング・コモンズ, IDE 現代の高等教育, 556, 4-10, 2013.
- 3) 片山裕之ほか; 学習スタイルの向上・改善を目指した学生と図書館職員の協働による実践の成果と課題, 平成 26 年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 24-25, 2014.
- 4) 亀岡由佳ほか; 学生・教員・図書館職員の協働による学修支援の取り組み, 第 21 回大学教育研究フォーラム発表論文集, 98-99, 2015.